

水土里ネットだより

letter from akita

水土里ネットと広報活動

21世紀土地改良区創造運動実践報告

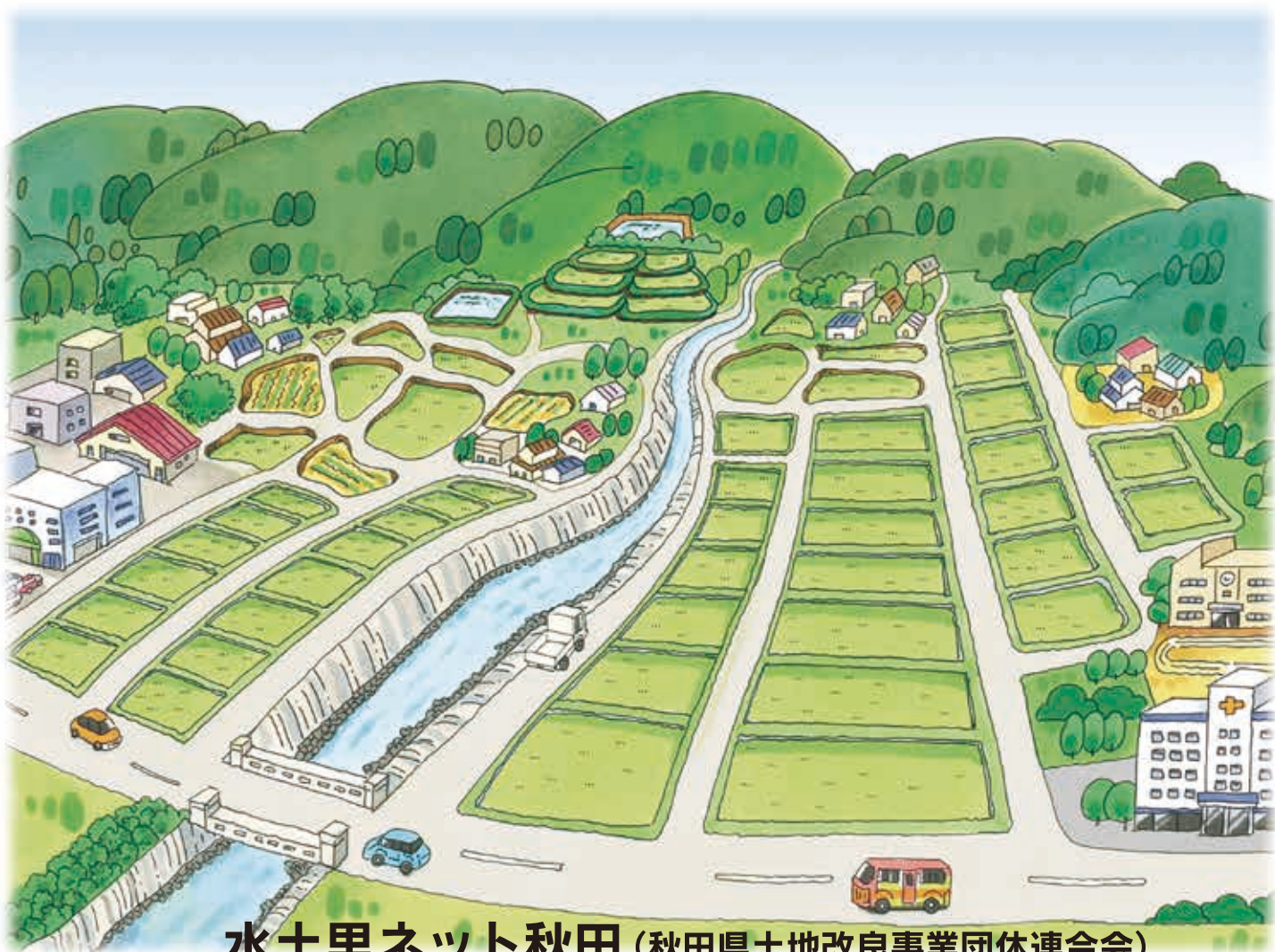
特集1 2016語り部交流会inあきた(北秋田)

特集2 水土里キッズわくわく探訪inにかほ

特集3 秋田県21創造運動表彰県知事賞(うご)



第17回美しく豊かな農村づくり写真コンクール



水土里ネット秋田 (秋田県土地改良事業団体連合会)

水土里ネットと広報活動

戦後土地改良の背景

昭和22～25年 農地改革
昭和24年 土地改良法の制定

昭和36年 農業基本法の制定
昭和39年 土地改良法の一部改正

平成 7年 食料管理法の廃止
平成11年 食料・農業・農村基本法の制定

所有者=耕作者=地域住民
土地改良事業効果は農家へ

生産量の増大を含め食料の
安定・安価供給は土地改良事業の
消費者効果

食糧・農業・農村基本法が目指すもの

食料の安定供給の確保

多面的機能の十分な発揮

農業の持続的な発展／農村の振興

旧基本法

農業の発展と農業従事者の地位の向上
農業の生産性の向上
農業生産の選択的拡大と農業総生産の増大

言い換えれば

食料生産基盤の整備と農村環境の
保全・管理を行う事業

土地改良事業とは

- ・かんがい排水、ほ場整備、農道整備等、農業生産基盤の整備
- ・農業集落排水、農村生活環境整備等、農村の生活環境の整備
- ・水質保全、湛水防除、農業水利施設管理等、農村の保全と管理

土地改良についての広報活動

食料・農業・農村基本法の制定から「農業・農村の多面的機能の十分な発揮には土地改良区の役割が大きい」ことへの認識が深まる→社会情勢の変化から土地改良事業の公共性が強くなる

国民からの理解をどのように得るか

21世紀創造運動(平成13年)
土地改良区のお愛称として水土里ネット

平成5年
ガット・ウルグアイランドと日本の
農業多面的機能の位置づけ

土地改良事業と税の投入

多面的な機能の確保など国民が期待する新たな役割に対し、
どのように土地改良区が取り組んでいくか

情報発信としての広報

事業費(県営事業)

税

県負担
市町村
農家
負担区分

多面的機能の最も大きな効果発揮には
畦畔と水路の管理が大事

農業の持続的な発展と農村の振興には土地改良区の果たす役割が大きい

土地改良区と土地連の役割を理解した広報

**土地改良区(組合員による構成・・・農家)
事業を始めるために設立される団体**

- 土地改良事業の推進
- 農業に必要な用水の水源確保○用水路・排水路の整備・管理○用排水施設の整備・管理
- 農地の整備○地域資源を次世代に引き継ぐ

農業生産基盤の維持・管理
をする団体

**土地連(会員による構成・・・市町村・改良区・農協)
事業を行うために設立された団体**

- 土地改良区への技術的な指導・援助
- 土地改良事業に関する教育及び情報発信
- 国又は県の行う土地改良事業に対する協力

農業生産基盤や農村環境に
ついてのコンサルタント(設計)

広報活動の展開

「水」「土」「里」の知名度を上げ、土地改良事業の大切さ、食糧生産に必要な組織であることへの理解を広げる

土地改良区

- ①組合員への広報
- ②地域住民への広報

土地連

- ①会員への広報
- ②一般市民への広報

水土里ネットとしての
情報共有

何を広報するのか?
効果的な広報活動について検討する

メディアに取り上げられることも大事
何もしなければ何も始まらない

「何をどの程度まで」、「いつまでに」目標と計画を持って

広報活動の最終目的は組織の存続と継続

今の農業情勢(農家数の減少等)から危機感を持って活動をしなければ必要性を否定されかねない

農地と水路を未来へつなぐ水土里ネット

広報活動は21世紀創造運動の一環、みんなで取り組んでいこう!!

21世紀土地改良区創造運動とは？

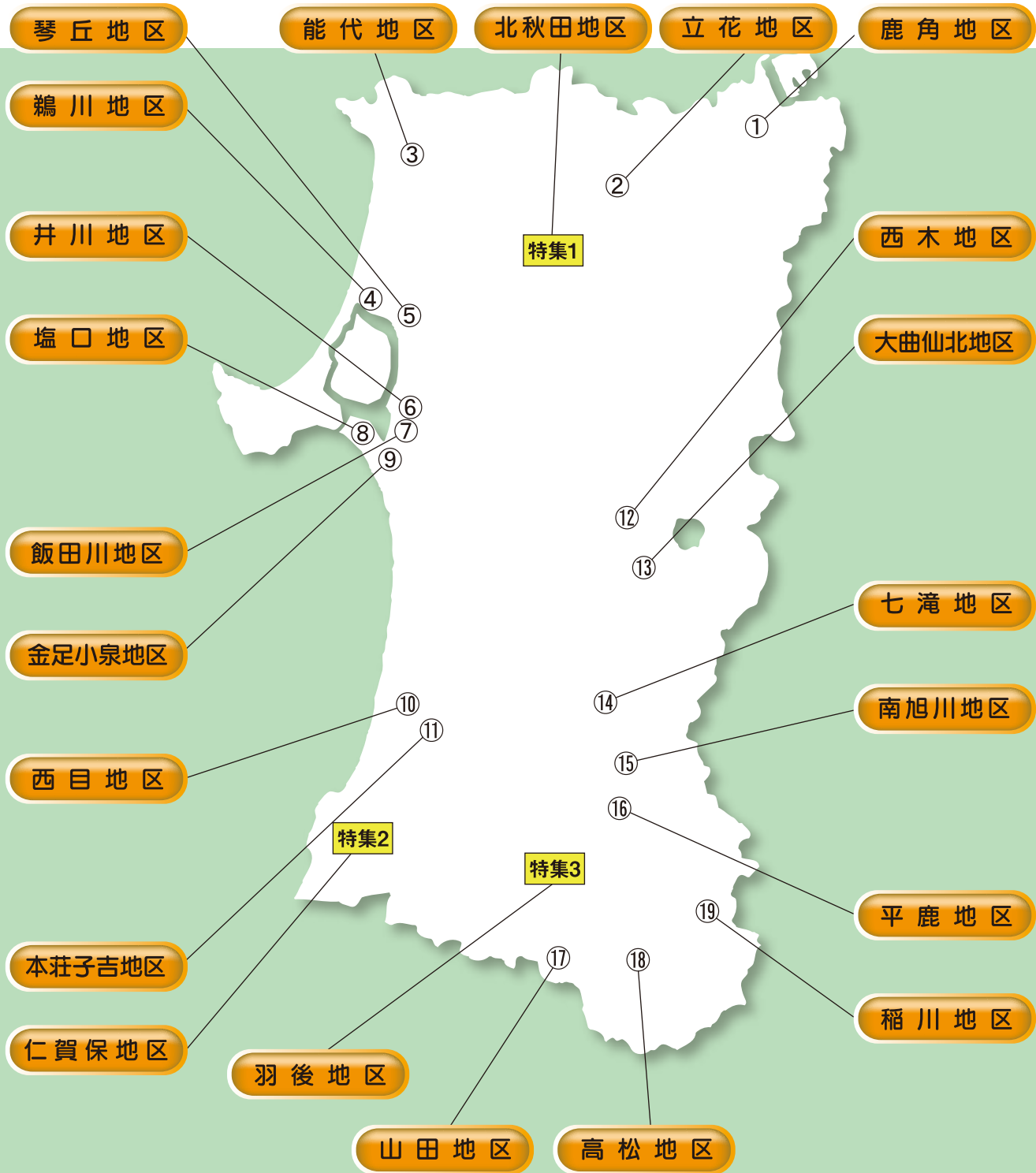
平成13年に始まった21世紀土地改良区創造運動は、全国各地で多様な取り組みが展開されており、「水土里ネット」の愛称の普及にも貢献しています。この運動は、「水土里ネットから地域へ」発信する外部運動であり、水土里ネット関係者の意欲の向上と意識改革を進め、県民に向けて水土里ネットの活動をPRする機会となっています。

平成28年度 活動状況

○運動実施地区

	地区名	関係機関	活動・イベント内容	ページ
特集1	北秋田	秋田県土地改良事業団体連合会 大館・北秋田支部	2016語り部交流会inあきた	5~6
特集2	にかほ	にかほ市土地改良区	水土里キッズのわくわく探訪inにかほ	7~9
特集3	うご	羽後町土地改良区	21世紀土地改良区創造運動県知事賞	10~12
1	鹿角	秋田県土地改良事業団体連合会鹿角支部	田んぼアート	13
2	立花	大館市土地改良区	小学生農業体験	13
3	能代	秋田県能代地区土地改良区	水土里の実践活動	14
4	鶺川	水土里ネットみたね	豊穰の里ウォーキング兼施設見学会	14
5	琴丘	水土里ネット琴丘	農業施設見学会	15
6	井川	井川町土地改良区	学習田農業体験活動	15
7	飯田川	水土里ネット飯田川	農作業体験・収穫祭	16
8	塩口	水土里ネット天王	水路用地のクリーンアップ	16
9	金足小泉	新城川土地改良区	水利施設のクリーンアップ	17
10	西目	由利本荘市土地改良区	農業体験学習	17
11	本荘子吉	水土里ネット子吉	ふるさと環境教室	18
12	西木	仙北市西木土地改良区	施設見学会	18
13	仙北	秋田県土地改良事業団体連合会職員会大曲仙北支部	第5回水土里のみちウォーキングin抱返り溪谷	19
14	七滝	水土里ネット仙北平野	水生生物の自然観察会	19
15	南旭川	水土里ネット南旭川	花の植栽活動	20
16	平鹿	秋田県雄物川筋土地改良区	植栽活動	20
17	山田	水土里ネット山田五ヶ村堰	維持管理巡回コンテスト	21
18	高松	湯沢市中央土地改良区	三途川隧道見学	21
19	稲川	水土里ネット稲川	農作業体験・標語コンクール	22
	計	22地区		

平成28年度活動地区位置図



秋田県21世紀土地改良区創造運動表彰

地区名	実施主体	賞	所在地
雄勝	水土里ネットうご	県知事賞	羽後町 <small>特集3</small>
山本	水土里ネット琴丘	奨励賞	三種町
仙北	水土里ネット仙北平野	奨励賞	大仙市
平鹿	秋田県土地改良事業団体連合会平鹿支部	特別賞	横手市

北秋田 秋田県土地改良団体事業連合会 北秋田支部

2016語り部交流会inあきた

1月19日、北秋田市交流センターで秋田県北秋田地域振興局と秋田県土地改良事業団体連合会大館・北秋田支部主催の「2016語り部交流会inあきた」が開催されました。

はじめに主催者を代表して大館・北秋田支部の畠山理事長が「北秋田地域は、県内ではまとまった農地が少なく、里地里山と言われる所であるが、河川やため池などから水を引く技術を築き、利水・治水を地域の共同活動の両輪にしてきた。今後も様々な地域活動に防災・減災振興を絡めて取り組んでいきたい」と挨拶を行いました。



次にあきたの森づくりサポートセンター所長の菅原徳蔵氏が、北秋田の飢饉の歴史やそれを改善するために尽力した長崎七左衛門の紹介、縄文文化を育んだブナの森、里地里山の保全について、基調講演を行いました。

実践報告では3名の方に、ご自身が行われてきた活動について紹介していただきました。

基調講演 「ブナ帯文化のふるさと～水の郷in北秋田」



(あきた森づくり活動サポートセンター) 所長 菅原 徳蔵 氏

北秋田市は、古くから水不足や洪水、病虫害により大凶作や飢饉が発生していた。そのため、長崎七左衛門は安定的に用水を供給するべく、断崖絶壁に水路トンネル、大留堰堤を築造した。堅い岩盤を掘り抜くために活用されたのが、当時最先端の鉋山技術であった。長崎七左衛門は数多くの書籍を残したが、「長崎農書」には、秋田県農業の神様・石川理紀之助も注目していた。長崎農書は、貧農救済に一生をささげた明治期

の老農たちに紹介され、継承されている。

また菅江真澄も、森吉山に何度も訪問し、ブナ帯地域の自然、暮らしと文化を愛した。阿仁にも訪れ、マタギ言葉にアイヌ語が多いことも発見している。マタギは縄文の末裔であり、縄文遺跡群は、北緯40度以北のブナ帯地域に集中している。「ブナの森が縄文文化を育てている」ともいえるだろう。

実践報告



(元竜森小学校 PTA 会長)
清水 修智氏

「地域と学校で共に育んだ水源林」

学校林の活動は、林野庁からの要請により、学校、地域が一体となり植林活動を行うことで、七日市地区では昭和29年から植林活動を行い、昭和33年から学校植林を実施するべく、子どもたちに杉苗の植え方等を指導していた。学校林の活動は、昭和34年に秋田県大会で優秀賞を受賞し、昭和37年には全国コンクールで準特選を受賞するまでになった。平成5年には内閣

総理大臣賞、ノーストップ賞を受賞し、名実ともに日本一に輝いた。

植林活動から60年近くたった今では、国有林1,500haが生活環境保安林に設定、私有林でも230haが水源涵養保安林に設定されている。これらは、地域住民と学校職員、生徒、そして卒業生による60年の汗の結晶である。



(七日市公民館長)
佐藤 和博氏

「おさるべ川の子どもたち」

北秋田市七日市地域では、長岐家が歴代の当主を務めている。五代目の長岐甚之丞は、私財を投じ、3年がかりで絶壁を切り抜き、岩堰とよばれる用水路を完成させた。たがねとのみだけで絶壁を削った痕は、今でも鮮明に残っており、当時の人たちの思いや息づかいが感じられる。

岩堰をめぐる体験活動は、小学校の教育課程に組み込まれており、地域の方が先生

となり、子どもたちに岩堰の歴史を教えている。他にも、「おさるべ自然の会」や地域の人たちが協力して実施している「おさるべ川探検隊」では仲間と共に泳いだり、水生生物と触れ合ったりして、ふるさとの川で思う存分楽しむ活動を行っている。その活動は道具もなにもいらず、ゲームにも負けていない。



(北秋田市土地改良区)
山内 幸雄氏

「鷹巣三堰の歴史とその継承」

鷹巣三堰とは、1661～1681年に造られた、米代川を取水源とする太田堰、坊沢堰、鷹巣堰を統合した呼び名である。

しかし、三堰はどの堰も仮設的なもので、年月の経過と共に維持管理は多大な負担となっていたため、昭和24年に三堰を統合する計画を立て、昭和41年3月に合同取水施設(揚水機場)を完成させた。その後、昭和55年にかんがい排水事業に着工、昭和61年の完成となった。鷹巣三堰は、先人たちの「利水と治水」にかけた思いを受け継ぐ貴重な土地改良施設であり、後世に伝えるべく、これからも管理していきたい。

鷹巣三堰の継承として、太田堰の工事を

承認した、当時の御奉行が亡くなったとき、その霊を奉り偉業を後世に伝えたいという思いから太田堰神祭を開いた。

現在も御奉行の命日である5月2日に毎年行っている。他にも地元小学生への出前授業や、田植え、稲刈り体験を通じて、「田んぼに必要な水は、土地改良区で管理し供給している」ということを伝えている。現在の土地改良施設は、先人たちがその時々々の知恵や労力、費用を掛けて築いてきた証であり、今ある施設の重要性を再認識し後世に伝えていくためにも、土地改良区は適正な維持管理に努めていきたい。



その後、登壇者等による「語りフォーラム」が行われ、オブザーバーとして参加した県農林水産部の瀧川次長は「菅江真澄などの遠い実践や実践報告者の近い実践を聞いて世代を超えて、知識や知恵をつないでいくことの重要性を感じた」と話し、山内事務局長は「北秋田市土地

改良区として合併の認可が下りて今日ちょうど1年。土地改良区の歴史は、土地改良施設の歴史といえる。HPや動画など、以前はなかったものがどんどん増えている。今後は記憶より記録を残していくことが、後世に伝えていくための手段になるのではないかと結びました。

にかほ にかほ市土地改良区

水土里キッズのわくわく探訪inにかほ

水土里ネット秋田とにかほ市土地改良区が主催の「水土里キッズのわくわく探訪」が開催され、秋田市とにかほ市併せて60名が参加しました。

この「わくわく探訪」は、小学生を対象として農業水利施設や水路を流れる水、そしてその水でつくる農産物への関心を高めてもらうきっかけづくりとして行っています。



元気なキッズ達が秋田市で集まったときにはあいにくの雨模様。にかほ市の集合場所である「陣屋」に着いても雨は続いていました。

しかし、最初の見学場所である「元滝」の駐車場に着いたときには晴れ間が差してきました!!にかほ市土地改良区の伊藤理事長にご挨拶頂き、いざ探訪へと出発!!



「元滝伏流水」の説明は県由利地域振興局の武内副主幹がしてくれました。元滝の水は、そびえ立つ鳥海山に降った雪や雨などがゆっくり地表を辿って流れてきているものだそうです。

今、滝から注ぎ込まれている水は、およそ80年前に降ったものであるということ、山型のスポンジと水を使って分かりやすく説明して下さいました。1日に流れる水は学校のプール100杯分であることを聞いて、子供達もビックリ。写真を使ったクイズ形式の説明で、みんな楽しみながら聞くことが出来ました。



次に、そばが有名な「横岡地区」に行きました。自治会長の齋藤進さんにご挨拶を頂き、齋藤喜久男名人から蕎麦打ちの講習を受けます。

みんな真剣に名人が蕎麦を打つところを見えています。ここ横岡の蕎麦は「十割蕎麦」で、つなぎに卵と豆腐を使っています。みんなで試行錯誤を重ねて、この配合に至ったとか。





名人の講習が終わると、グループに分かれてレッツ蕎麦打ち!! 協力して美味しい蕎麦を目指します。

中には、プロ顔負けの上手な蕎麦を打った班もありました。みんなで頑張って作った蕎麦はとっても美味しかったね!



午後には、「上郷温水路群」の中の小滝温水路に行き、みんなで足を入れてみました。さっき触ってみた元滝の水より温かい! 説明は、にかほ市土地改良区の戸時事務局長がしてくれました。

にかほ市の水路を流れる水は、鳥海山麓の冷水のため農業に向かず、昔の人達は智慧を出して、太陽に当たっている時間を長くして、水温を上げるようにしました。



「畑野小水力発電所」を水土里ネット秋田管理情報部の佐藤部長が紹介してくれました。この発電所で発電した電気は、電力会社に売電され、その代金は農家の皆さんが負担していた費用に充てられています。昨年5月から可動を始めた最新の施設です。

中身の水車が見えない構造になっているため、水土里ネット秋田で作った模型を使って説明しました。



はじめに水の力に見立てて模型を自分の手で動かして、キッズ達が発電の仕組みを理解したところで、実際に水路に入れて観察しました。

最後は「竹嶋瀧」に行き、ここでは、にかほ市土地改良区の竹内さんに説明を受けました。今から300年前の江戸時代、飛集落を作った佐々木治兵衛が、竹嶋瀧に土手を築き4haに田んぼを作ったと伝えられています。今は10haの農業用水に使われており、防火用水や景観形成に役立っています。



最後に水土里ネット秋田の金森部長に挨拶を頂き、閉講となりました。今年は20周年記念ということで、かおる堂さんとコラボした「みどりちゃんサブレ」をみんなに配りましたよ! 家族3人で参加してくれたお母さんからは、「とっても楽しく、為になった。子供もすごく楽しそうにしている、嬉しかった。普段はなかなか出来ない経験をさせてくれてありがとうございます。もっと早く“わくわく探訪”があることを知りたかった。来年も参加します!! と嬉しいお言葉を下さいました。

水土里キッズ

から感想文が届きました

「水土里キッズのわくわく探訪inにかほ」

秋田市立高清水小学校 四年 藤原 昊大

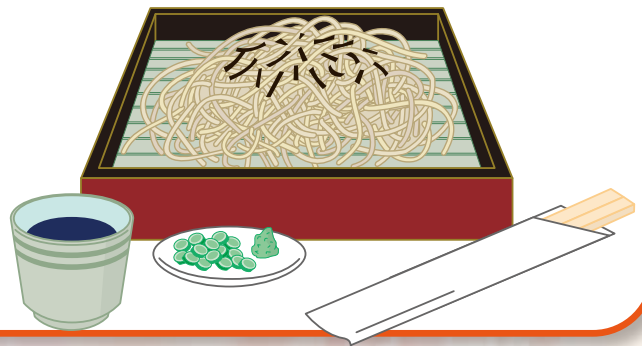
今回初めて学校の友達と一緒に、そば打ち体験にきょう味をもって参加する事にしました。

家では、みんなうどんを食べます。あまりそばは食べませんでした。初めてそば粉を使ってこねる工程からやって、正直あんなに大変だとは思いませんでした。そば粉を棒の様な物で伸ばす工程が一番むずかしかったです。最後の切る工程は、最初はこわかったけど、ちゃんと手をおく場所におけば、切れたので楽しかったです。食べるまで、時間もかかってお腹もへって待ちどおしくて、おばさん達がゆでてくれてみんなで作ったそばを食べた時は、太さとかばらばらで、手づくりの感じがすごくできていて、おもしろかったです。味はとてもおいしかったです。

滝もつくまで、とても遠くて大変だったけど、水もつめたくて、その水が、山から流れて来ているところがとてもびっくりしました。長い年月をかけて、ちよろちよると自然のすこさを知りました。今回の行った場所は、

すべて初めて行ったそばばかりですごく勉強になりました。その場所、場所のいかせつもとても為になりました。また、きかいがあれば家族で行ってみたいと思いました。他の小学校の友達ともこうりゆうがもてて、それも僕にとっては一つの思い出になり、他の小学生の情報も知れたのでよかったです。帰りにもらったクッキーもうれしかったです。

これからもこのような企画があればいろいろと参加してみたいと思いました。水土里ネット秋田のみなさんいろいろとありがとうございました。



「わくわく探訪inにかほで学んだこと」

秋田市立川尻小学校 六年 加藤 鈴菜

私は、水土里キッズのわくわく探訪inにかほに参加して、農業用水の大切さを知りました。まず、元滝伏流水では、八十年以上前の雨が滝から流れていたなんて知らなかったのですごくいいと思いました。一日五万トンも水が沸き出している滝だと分かりました。まわりにあった用水路は、とてもきれいな水が流れていて大自然が広がっていて、すごくきれいだなと思いました。水は予想以上に冷たかったけど、とてもすき通ってきれいだなと思いました。

次に上郷温泉路群では水に入りましたがとても冷たいんだなと思いました。でも水遊びは楽しかったです。地域の人達の協力・話し合いで日本で最初の温泉路を作ることになったのはすごいいいと思いました。

次に横岡グリーンツーリズムでの「ソバ打ち体験」では、初めてソバ打ちをやりました。私は、もう少しかんたんなのかなと思っていたけど、予想以上にむずかしかったです。ソバ粉五十グラムでもけっこう重たくな

るんだと分かりました。豆ふや卵をまぜて入れるなんて思いませんでした。私が一番印しように残ったのは、ソバを切ったことです。少しずつずらしながらソバを切るのは少しむずかしかったけど、楽しかったです。

次に、畑野小水力発電では、とても速く、大りょうの水が流れていてすごいなと思いました。水車形式はチューブラ式プロペラ水車なのがすごいいいと思いました。次に、竹嶋瀉では、ごう音とともに堤防が崩れてしまうなどの、お百姓の一人娘が行方不明になって死んでいたなど、とても長い歴史があるんだなと思いました。にかほ市でたくさんの事を学ぶ事ができて、とても楽しかったです。



うご 羽後町土地改良区

21世紀土地改良区 創造運動県知事賞



水土里ネットの概要

1. 水土里ネットの概要

水土里ネット名：羽後町土地改良区
 理事長名：柴田 均
 役員数：役員 20名、職員：常勤 7名
 組合員数：1,957名
 受益面積：2,455ha (水田2,455ha)
 住所：秋田県雄勝郡羽後町西馬音内字中野177

水土里ネット設立の経緯：平成16年3月31日、旧嶋田新田土地改良区・旧田代仙道土地改良区・旧羽後町土地改良区の三土地改良区が統合し羽後町土地改良区となった。
 現時点での関係面積2,455ha・組合員数1,957名・総代定数63名・理事17名・監事3名・職員7名となっている。

2. 地域の特徴

本地域の地形は雄物川左岸に展開する平地と子吉川水系最上流部左右岸沿いに南北に細長く形成する山間地とに大別される。平地の標高は50m～100m、山間部は200m～300m、平地農村と中山間農村地帯となっている。また、秋田県内有数の豪雪地帯でもある。

町の特産品としては、「羽後牛」、昭和22年頃から生産を始めている「羽後すいか」などがあり、平成28年7月1日より、直売所を備えた「道の駅うご 端縫いの郷」がオープンし多くの人で賑わっている。

毎年8月16～18日に羽後町西馬音内で開催される「西馬音内盆踊り」は日本三大盆踊りの一つに数えられている。また、冬には雪の回廊を馬ソリに揺られながら花嫁道中を行う「ゆきとびあ七曲」の祭りなど、優美な歴史伝統が受け継がれている地域でもある。

町内にはそば屋が多く「西馬音内そば」としてガイドブックなどで取り上げられている。

運動の取り組み体制と継続性・発展性

1. 運動の体制

役員 「食料・環境・ふるさとを考える女性の会」については、副理事長が役員を中心となって進めている。地区毎に役員同士で話し合い、推薦する形で参加者を選出している。
 「田んぼの学校」については、田代小学校の小学生を対象とする場合には正副理事長及び地区担当理事の中から参加している。西馬音内小学校の小学生を対象とする場合には、西馬音内地区の役員が参加している。「水土里と森のふれあい学校」については、平成27年度の内容が学校内での学習会と木工体験だったので、正副理事長だけの参加となった。小学校との話し合いで内容は違ってくるので、内容によっていろいろな役員の協力を得て進めており、それぞれが率先して活動に参加してくれるようになってきた。

職員 主に、活動計画・内容の策定、関係機関との調整や資料作成、また写真や動画撮影による記録等を行っている。具体的には、「女性の会」であれば施設の見学と事業説明、「田んぼの学校」では、教育委員会の指導のもと、学校側との日程調整や内容・行程・資料作成・写真や動画撮影による記録等を行っている。「ふれあい学校」であれば田んぼの多面的機能などの身近な話から土地改良施設の重要性と改良区の活動についての理解を得る」事に重点を置いて、職員の負担が大きくなるように活動に取り組んでいる。

組合員 田植えや稲刈りなどの体験学習に参加してもらい安全面で協力してもらっている。特に、田代小学校での「田んぼの学校」を実施する際に、苗の準備や田植え、稲刈り作業の説明などに協力してもらっている。
 多面的機能支払では、活動組織の作業、また子ども達の水路の生きもの調査に取り組むなど、様々な活動を進めている。

運動を担う後継者、人材育成の取り組み

職員7名の事務局体制なので、特に「女性の会」の場合は殆どの職員が参加している状態である。創造運動については、なるべく多くの役員が参加する様にし、実際の経験を踏まえて意見を出し合い、負担が特定の人に偏らないよう、運動の取組を進めている。「田んぼの学校」や「ふれあい学校」などに小学生として参加した人が、将来的には水土里ネットの役員または職員となり活動を進める側になる事を期待している。

2. 財政的な対応

財源状況 ■自主事業を活用している。 ■補助事業を活用している。

継続していくための財政的な工夫

大々的なイベント開催は行わず、各小学校との連携のもと、学校行事として実施してもらうことで、財政的には負担を掛けずに行っている。身の丈に合った現在の形を基本としながら、助成を受けられる活動があれば積極的に取り組んでいきたい。

運動の背景と基本理念・目標

1. 運動の背景

組合員の高齢化に伴う年金受給や相続・経営移譲などによる新たな組合員が、改良区存在自体知らなかった・土地改良事業について理解していない、などの認識不足により、受益者による一斉作業や賦課金徴収などに支障が出てきている。

今までも2回発行し組合員家庭全戸へ配布している広報によって啓蒙普及活動は行って来たが成果が十分とは感じられない。

土地改良事業を円滑に進めるためには、まず改良区自体の存在及び活動内容についての理解を、組合員を含む地域住民から得る事が必要と考え、21世紀創造運動に取り組んでいる。

2. 運動の基本理念・目標及び決定機関

(1) 運動の基本理念、目標

① 組合員家庭(組合員本人及びその家族)の土地改良区への理解を広める。

② 非組合員の土地改良区への理解を広める。

土地改良事業を円滑に進めていくには、組合員はもとより、町の協力も不可欠である事から、組合員家庭以外の一般羽後町民家庭の理解も必要である。特に羽後町は、町として土地改良事業への理解があり、積極的な協力を載っている事もあり、改良区自体が組合員以外の町民の理解を得られる様に努力して行くべきと考えている。

ただし、農家の経営状況が芳しくない現状にあつては、経費を抑え限られた役職員で協力して進めて行く事も大事である。

そのため今は、組合員に絞って深い理解を得るより、内容については浅くとも、羽後町民全体から広く理解を得る事を目標として進めている。

(2) 21創造運動の決定機関

■水土里ネット総(代)会 年間活動計画として承認を得ている。

21創造運動の活動内容

No.1 活動名 食料・環境・ふるさとを考える女性の会

活動部門: ■組織活性化

①開始時期:平成17年度~ ②開催数:1回/年 ③実施形態:■主催 ④連携団体:団体名 秋田県雄勝地域振興局農林部

⑤活動経費:76千円 自主財源 76千円

⑥活動内容

現羽後町土地改良区初代理事長齊藤保雄氏の発案により、平成17年より取り組んでいる。組合員家庭にいても実際に土地改良事業に触れる機会の少ない女性の方達に土地改良区を理解してもらう事が、今後の大きな課題となりそうな事業推進・賦課金徴収を円滑に進める事に繋がるのではないかと、この考えによる。

施設の現地見学・事業説明、意見交換会を行っている。

⑦取り組みの工夫

地区毎の委員の人たちとの会議などでは、お互いに施設や管理状況など理解している事が多いため、省略して話したが、実際に土地改良事業に触れる機会の少ない方達であるので、分かりやすく噛み砕いた言葉を使い、簡潔な説明を心がけている。

また、比較的身近な水の管理などと具体的に結び付け施設を中心に進めている。

なお、実際の参加者は家庭の主婦層が中心となる事が多いため、営農や日常生活に影響が少なく参加し易いと思われる「10月下旬から11月上旬」「9時30分から15時」までの日程で毎年開催している。

⑧取り組みの成果

いつも目になっていた施設が土地改良施設だと初めて知った、改良区の活動について理解出来た、土地改良区が身近に感じられる様になった、など土地改良事業への理解を得る機会になったと感じた。参加した感想を地域の集まりなどで話して欲しい旨をお願いし、快く引き受けてくれる方も多数おられた。

ただ、二十人に近い組合員家庭の中から毎年十人程度の参加者による活動なので、長く続ける事で参加者を増やし、少しずつでも多くの組合員に浸透させていきたい。

⑨マスコミ等への掲載について

農林水産省土地改良団体の男女共同参画パンフレット(活動事例として)

⑩参加状況

年度	参加者数					スタッフ数 (内数)	参画団体数 行政士連等	参加者数計
	水土里ネット		一般					
	役員	職員	組合員	小中高生	その他			
25	2	5			12	1	1	20
26	2	5			11			18
27	2	3			11		5	21

①活動状況写真



ため池施工状況見学(二ツ橋ため池)



意見交換会

No.2 活動名 田んぼの学校

活動部門: ■組織活性化

①開始時期:平成18年度~ ②開催数:1回/年 ③実施形態:■主催

④連携団体:団体名 西馬音内小学校:JAこまち青年部・羽後町・雄勝農業共済組合・田代小学校:組合員 ⑤活動経費:20千円 自主財源 20千円

⑥活動内容

西馬音内小学校:田植え体験学習/稲刈り体験学習(主催:JAこまち青年部)

収穫祭(主催:西馬音内小学校)

田代小学校:田植え体験学習/稲刈り体験学習(主催:羽後町土地改良区)

⑦取り組みの工夫

学校の時間割と調整しながら取り組んでいるので、開会式でのあいさつなど限られた時間の中で改良区について話す様になっている。

⑧取り組みの成果

毎年継続的に参加を行い、11年目になる。H27年度は学校との日程調整が上手くいかなかったが、今後も継続的に子供達と田んぼを通してふれあう活動を行ってきたい。一昨年の田んぼの学校では、「実際に作業を体験する事で農作業の大変さを理解する事が出来た」、「昔の人は本当に大変だった、などの意見も頂いた。そういった意見を大切にしながら、学校で行っている学習と合わせて、水の必要性とそのための用水路等施設の役割についてもより理解を深めていけたらと思う。活動には、非農家の子どもも参加しているので、農村の混住化の問題にも対応出来ると考えている。将来、子供達が就農し組合員となった時にこの経験を覚えていてくれば、土地改良事業への理解も得られ易いのでと期待している。

⑨マスコミ等への掲載について

無し

⑩参加状況

年度	参加者数					スタッフ数 (内数)	参画団体数 行政士連等	参加者数計
	水土里ネット		一般					
	役員	職員	組合員	小中高生	その他			
24	2	11	3	144		10	3	170
25	3	12	3	168		12	3	201
26	2	5	2	178		6	3	193

①活動状況写真



田植え体験学習(西馬音内小学校)



稲刈り体験学習(西馬音内小学校)

No.3 活動名 水土里と森のふれあい学校

活動部門:■組織活性化

①開始時期:平成27年度~ ②開催数:1回/年 ③実施形態:■主催 ④連携団体:団体名 西馬音内小学校

⑤活動経費:340千円 補助金:340千円(事業名:県民参加の森づくり事業(森づくり県民提案事業))

⑥活動内容

学習会(川の源流や森林・田の水源涵養機能について)、木工体験(本箱作成)

⑦取り組みの工夫

森林や水田の持つ水源涵養機能の大切さについて学び、自然と触れ合う機会をつくる様になっている。

田んぼでの田植えや稲刈りとは別の体験をする事で、稲作にはいろいろな人や物が関係している事、自然が様々な事柄が影響し合って成り立っている事を理解してもらう。それによって、それぞれに学習した事への理解が深まると考えている。

⑧取り組みの成果

木と水の関係性が理解出来た、夏休みに入るので実際に川の源流を見に行きたい、といった感想を聞くことが出来た。いつも蛇口を捻るだけで出てくる水が、どのように流れて来ているか、今回の学習会を経て木と水の関係性について理解を深める事が出来た様だった。今後は、水土里と森のふれあい学校を年間行事として定着させ、現地へ出向くなどより深く木と水の関係性について理解させられたら良いと考えている。

⑨マスコミ等への掲載について

無し

⑩参加状況

年度	参加者数					スタッフ数 (内数)	参画団体数 行政士連等	参加者数計
	水土里ネット			一般				
	役員	職員	組合員	小中高生	その他			
27	2	2		43	4			51

①活動状況写真



ため池施工状況見学(二ツ橋ため池)



意見交換会

No.4 活動名 水土里キッズのわくわく探訪inUGO

活動部門:■地域農業 ■地域コミュニティー ■地域資源管理

①開始時期:平成27年度 ②開催数:1回/年 ③実施形態:■共催

④連携団体:団体名 水土里ネット秋田、羽後町 ⑤活動経費:20千円

支援団体300千円(団体名:水土里ネット秋田)自主財源20千円(参加者に記念品のタオルを贈呈)

⑥活動内容

秋田県内小学生(主に秋田市)を対象とした、羽後町内の土地改良関係施設見学会

⑦取り組みの工夫

羽後町のことを他地域の児童に紹介し、それぞれの地域により様々な土地改良施設がある事を理解してもらうこと、自然と触れ合う事の楽しさも感じてもらえるような施設見学のルートを、水土里ネット秋田の方と一緒に考えた。

⑧取り組みの成果

総合交流促進施設(旧長谷山邸)の見学やイワナの掴み取りなども有り子ども達は楽しく参加していたが、施設の見学自体は質問するなど関心の高い子どももいれば、あまり関心のなさそうな子どももあり、興味を引く方法を考えるなど、工夫するべきところは多々ある様に感じた。また、日頃から施設の安全策への配慮はしておくべき、子ども達の姿をみて感じた。

⑨マスコミ等への掲載について

秋田テレビ・夕方のニュースで放送

⑩参加状況

年度	参加者数					スタッフ数 (内数)	参画団体数 行政士連等	参加者数計
	水土里ネット			一般				
	役員	職員	組合員	小中高生	その他			
27	2	5		30			20	57

①活動状況写真



橋谷ため池(ラビナス堤)の見学



嶋田新圃排水機場での説明

多面的機能支払、中山間地域等直接支払への関わり

①実施地区数29カ所 ②実施面積2,103ha(受益面積の85%) ③活動組織の構成 農業者、自治会、婦人会、子供会、老人会、営農組合等

④活動内容

農用地・水路・農道における草刈作業を主体とした簡易な維持管理作業及び植栽等を中心とする農村環境保全活動

⑤水土里ネットの関わり

作業日報・写真整理帳等の作成を主とした事務管理、金銭出納簿・証拠書類整理票の作成を主とした会計処理、及び各組織への指導・助言

⑥21創造運動への波及効果

婦人会・老人会の活動には「女性の会」の参加者が参加することが多いと思われる。

地域で集まる機会があれば「女性の会」の話しをして欲しい、とお願いし了解してくれた方もいる。早急な結果は求められないが、長期的に見て波及効果は有ると考えている。

子供会が参加する活動として、水路での生き物調査や水質調査を行っている。「田んぼの学校」での体験は学校の田での体験に限られるが、活動組織の場合はそれぞれの地域での活動になる。広域な自然の中から学ぶ機会を創出し、多面的・21創造運動の両事業を有機的に組み合わせることで、運動の目標である土地改良区の理解を広めることに必ずつながっていくものと思っている。

運動全体の成果と今後の展望

「女性の会」に参加した方々からは、「土地改良区の施設を含め活動内容が分かった」、「賦課金は何のために払うのか」と疑問だったが初めて必要性が理解出来た」との声があった。「田んぼの学校」に参加した子ども達も、昔ながらの手作業を体験する事で、農作業の大変さを理解出来た様だし、「水土里と森のふれあい学校」の参加者は木と水の関係性について興味を持って学習した様だ。そこから、それを支えている土地改良区の施設・事業にも理解を得られる様に進めていけると考えている。

実際の参加者の声を聞き限り毎回一定の効果は上がっているようだが、組合員・羽後町民の人数を考えれば、はっきりとした成果を感じるまでにはかなりの時間が掛かる事と思われる。

農家の経営が厳しい現在、直接農家経営に結び付かない啓蒙普及活動に多くの経費・役職員の時間を割くこと自体理解を得がたい。しかし、活動内容を含め土地改良区が理解される事は、賦課金の納付率向上による安定した改良区運営・円滑な事業推進と、組合員の利益に繋がる事と考えられる。組合員負担という点も鑑み、現在は「改良区への理解を広める」事を最重要課題として、まだ浅くとも広く理解を得る事を目指して、長く続けて行く事を考え、活動している。

なお、多面的機能支払いによる地域毎の活動も土地改良施設・事業に触れる機会を増やし、子ども達による水質調査・生き物調査など、創造運動を補完する効果があると考えられる。

これらの活動に、年2回発行し全組合員家庭に配布している広報を組み合わせ相乗効果を上げられる様、役職員並びに関係組織の協力を得ながら進めていきたい。

末広小学校「田んぼアート」及び水利施設について出前授業

今年も末広小学校で行っている古代米を使った「田んぼアート」のお手伝いをしました。田植え前日には、子ども達がデザインしたアートに杭内をして田植えの準備をし、当日は全校児童20名、児童の家族、地域農家の方々でアートを完成させました。8月25日土地連のドローンで上空からアートを撮影して頂き、初めて見るドローンに興味津々、今年の田植えは子ども達の記念になったようです。

田植え後は順調にアートが色づいていく状況を記録し、8月中旬には見頃を迎え、9月下旬に稲刈を行った。高学年は鎌を持ち刈り取りはさ掛け用に稲を束ね、低学年は束ねた稲を学校プールのフェンスにはさがけて作業終了。

全校児童20人と少ない学校ですが、一つのことを協力して作業ができる子供達で感心しました。今後も、これから地域を担う子供達に向け農業農村の役割について理解を深めてもらえるような活動を継続していきたいです。



内 容	末広小学校全校児童と田んぼアートに挑戦	
期 間	5月30日～9月30日	
場 所	末広小学校、隣接学校田	
活動普及対象	地元住民	
アピールポイント	昨年に続き、今年も末広小学校からオファーがあり、「田んぼアート」制作のお手伝いをしました。子ども達が考えたアートを元に、前日から杭打ちの準備をし、当日は1年生から6年生まで全校で田んぼアートを完成させました。8月には土地連より、田んぼアートを囲む子ども達を『ドローン』で撮影して頂きました。	
自己評価	①役職員や組合員に運動への理解が浸透している	17%/20%
	②基本理念や目標を立て、関連性を持った運動を実施している	15%/20%
	③身の丈に合った運動を継続しながら、広がりを持たせる工夫を行っている	19%/20%
	④水利施設の役割など水土里ネットの仕事を理解してもらった内容も含まれる	14%/20%
	⑤この活動で最も力を入れた項目について○を付けて評価	20%/20%
活動達成	85%	
今後の課題	組織の活性化・地域農業の振興・地域コミュニティへの貢献・地域資源の保全強化 地域の限られた人の参加となっている。今後幅広く活動していけるよう取り組みたい	

大館 大館市土地改良区

児童による農業体験学習

今年で13年目を向かえ、毎年恒例となった農業体験学習も、農事組合法人立花ファーム、立花農地保全保全隊の協力のもと、川口小学校3年生25名、先生2名が参加され、春のネギ植えに続き、10/25には立花ファームで栽培管理されたネギの収穫作業を体験、収穫の喜びを味わいました。児童からは多くの質問あり農業への関心が伺えました。また、11/6に行われた立花ファームによるネギ祭り(ネギの詰め放題)では、祭りを盛り上げようと下川沿中学生が応援隊としてコントや替え歌、ネギダンス等が披露され、地域の消費者との交流や地区の活性化に繋がったと思います。会場からは来年も来たいとの声が聞かれました。



内 容	川口小学生(3年)によるネギ植え・収穫体験 立花ファームネギ祭りでの下川沿中学生応援隊による地域活性化演技	
期 間	6月、10月、11月	
場 所	大館市立花字立花	
活動普及対象	その他	
アピールポイント	体験学習を通じて農業の楽しさや人々との関わりを感じることができました	
自己評価	①役職員や組合員に運動への理解が浸透している	15%/20%
	②基本理念や目標を立て、関連性を持った運動を実施している	17%/20%
	③身の丈に合った運動を継続しながら、広がりを持たせる工夫を行っている	18%/20%
	④水利施設の役割など水土里ネットの仕事を理解してもらった内容も含まれる	12%/20%
	⑤この活動で最も力を入れた項目について○を付けて評価	18%/20%
活動達成	80%	
今後の課題	組織の活性化・地域農業の振興・地域コミュニティへの貢献・地域資源の保全強化 水利施設の役割、水土里ネットの仕事のアピール不足	

水土里の実践活動

今年度は秋田県立大学の学生さんたちに農業水利施設の紹介をする視察研修、地元幼稚園の園児さんたちに参加していただいた大野分水工周辺への花の植栽活動、幹線排水路を実際に利用している地元住民の皆さんとの環境整備活動と、3つの活動を実施しました。植栽による景観形成や環境整備を行うとともに、農業水利施設を知ってもらうことができ、学生さんなどにはより農業に関心を持ってもらうきっかけになったと考えています。



内 容	農業水利施設の視察研修、農業水利施設周辺への花の植栽活動、幹線排水路の環境整備活動	
期 間	7月14日、9月21日、10月19日	
場 所	中央用水管理所、大野分水工、落合幹線排水路 等	
活動普及対象	地元住民、その他	
アピールポイント	地域住民等の方々と一緒に活動することにより、土地改良区や農業水利施設の役割・多面的機能について知ってもらい、関心を持つきっかけになった	
自己評価	① 役職員や組合員に運動への理解が浸透している	15% / 20%
活動達成 80%	② 基本理念や目標を立て、関連性を持った運動を実施している	18% / 20%
	③ 身の丈に合った運動を継続しながら、広がりを持たせる工夫を行っている	15% / 20%
	④ 水利施設の役割など水土里ネットの仕事を理解してもらう内容も含まれる	20% / 20%
	⑤ この活動で最も力を入れた項目について○を付けて評価	12% / 20%
	組織の活性化・地域農業の振興・ <u>地域コミュニティへの貢献</u> ・地域資源の保全強化	
今後の課題	活動の継続とともに、更なる広がりや理解を深めるような展開が必要	

鵜川 水土里ネットみたね

豊穡の里ウォーキング兼施設見学会

「豊穡の里ウォーキング」に老若男女55名の参加者が集まりました。朝から風が強かったものの、晴天に恵まれ、ウォーキングがスタートしました。年齢や、体調に合わせて選べるよう、中距離と短距離のコースを用意し、無理のないペースで田んぼ・水路・農道を観察しながらウォーキングしていただきました。排水機場の見学では、初めての方が興味深く話を聞いてくださっていたのが、印象的でした。排水機場の役割を理解していただく、良い機会となりました。



内 容	ウォーキングと施設見学	
期 間	10月23日	
場 所	第九排水機場周辺	
活動普及対象	地元住民	
アピールポイント	排水機場の見学を目的に、田んぼ・水路・農道をウォーキングしました	
自己評価	① 役職員や組合員に運動への理解が浸透している	15% / 20%
活動達成 75%	② 基本理念や目標を立て、関連性を持った運動を実施している	15% / 20%
	③ 身の丈に合った運動を継続しながら、広がりを持たせる工夫を行っている	15% / 20%
	④ 水利施設の役割など水土里ネットの仕事を理解してもらう内容も含まれる	15% / 20%
	⑤ この活動で最も力を入れた項目について○を付けて評価	15% / 20%
	組織の活性化・地域農業の振興・ <u>地域コミュニティへの貢献</u> ・地域資源の保全強化	
今後の課題	地域住民の参加をさらに増やし、施設の存在、役割の周知を図る	

農業施設見学会

琴丘小5年生全員を対象にため池・揚水機場・排水機場等を見学し、実際に操作体験を通して農業用排水施設と土地改良区の役割についての理解を深めてもらうことを目的としている。

活動を実施してから11年目になるが、活動内容は同じでも毎年児童が入れ替わるので新たな気持ちで取り組むことができている。今後も長くこの活動を続けていきたい。



内容	琴丘小学校を対象とした農業施設見学会	
期間	7月5日	
場所	山本郡三種町鹿渡	
活動普及対象	その他(地元小学生)	
アピールポイント	施設見学会を実施することにより、地域における農業用排水施設や土地改良区についての理解を図っていきたい	
自己評価	①役職員や組合員に運動への理解が浸透している	14%/20%
	②基本理念や目標を立て、関連性を持った運動を実施している	16%/20%
	③身の丈に合った運動を継続しながら、広がりを持たせる工夫を行っている	18%/20%
	④水利施設の役割など水土里ネットの仕事を理解してもらう内容も含まれる	18%/20%
	⑤この活動で最も力を入れた項目について○を付けて評価	14%/20%
活動達成	80%	
今後の課題	少子高齢化の進行により、年々参加児童が減少してきているので、今後は、複数学年の児童を対象とすることも検討していきたい	

学習田農業体験活動

今年も小学校学習田において、農業委員や農家の方々の指導により学習田農業体験活動「田植え・稲刈り」が行われました。田植えでは、泥の感触に歓声を上げながら丁寧に苗を植え、田植え後には用水路の水で手足についた泥を洗い流していました。稲刈りでは鎌での刈取りや、コンバインでの脱穀、はさがけ等の体験をしました。この活動からお米作りの大変さや収穫の喜びを体験するとともに、水や土にふれることで自然とのふれあう楽しさを学んだと思います。



内容	井川小学校5年生による「田植え・稲刈り」	
期間	5月19日(田植え)、9月26日(稲刈り)	
場所	井川小学校学習田	
活動普及対象	その他(小学5年生)	
アピールポイント	農作業の大変さを体験するとともに、自然とふれあう楽しさ、収穫による喜びをかみしめる活動になった。	
自己評価	①役職員や組合員に運動への理解が浸透している	15%/20%
	②基本理念や目標を立て、関連性を持った運動を実施している	15%/20%
	③身の丈に合った運動を継続しながら、広がりを持たせる工夫を行っている	15%/20%
	④水利施設の役割など水土里ネットの仕事を理解してもらう内容も含まれる	10%/20%
	⑤この活動で最も力を入れた項目について○を付けて評価	10%/20%
活動達成	65%	
今後の課題	どのように役割の大切さを伝えていくか	

飯田川 水土里ネット飯田川

川上 丈樹

農作業体験・収穫祭

飯田川小学校5年生による農作業体験に、老人クラブ・JAあきた湖東と一緒に参加しました。稲刈り時には、子供たちが一人ずつバケツで栽培したお米を、おにぎりにして食べました。自分が種もみから育てたお米の味は、一生忘れられない味だったと思います。収穫感謝祭では、各学年での農作業体験等を発表し、感謝状をいただきました。昼食では、婦人会と5・6年生が作った「だまこ鍋」を全校生徒と一緒に美味しく食べました。子供たちが農作業の難しさや収穫の喜びを感じることで、「農業の大切」さが伝わったと思います。



内容	飯田川小学校による農作業体験、収穫感謝祭	
期間	5月13日(田植え)、9月27日(稲刈り)、11月28日(収穫感謝祭)	
場所	飯田川小学校学習田、体育館・食堂	
活動普及対象	地元住民、その他(小学生)	
アピールポイント	子供たちと地域のふれあい、収穫の喜びと農業の大切さ	
自己評価	①役職員や組合員に運動への理解が浸透している	5% / 20%
活動達成 50%	②基本理念や目標を立て、関連性を持った運動を実施している	10% / 20%
	③身の丈に合った運動を継続しながら、広がりを持たせる工夫を行っている	15% / 20%
	④水利施設の役割など水土里ネットの仕事を理解してもらう内容も含まれる	5% / 20%
	⑤この活動で最も力を入れた項目について○を付けて評価	15% / 20%
	組織の活性化・地域農業の振興・ <u>地域コミュニティへの貢献</u> ・地域資源の保全強化	
今後の課題	さらなる地域住民の参加・協力	

塩口 水土里ネット天王

櫻庭 秀見

生活に密着した綺麗な水路を目指す

昔からこの水路は「せせらぎ水路」とはほど遠い「赤水っこ」と言われており、高い鉄分土壌のため染み出した成分が酸性化して水が赤く濁っていた。以前は生活水としても使われていたが、白い衣服を洗濯すれば赤く染るほどだったため、浄化水道がいち早く設備された。そのため近年は水路の必要性が薄れゴミの放置、ポイ捨てが増えてきていた。そこで、集落が一丸となってコミュニケーションを取りつつクリーンアップを行う事で、昔のエピソードを思いだしながら美化を推進している。この活動は、平成17年度より11年間行ってきたので地域にも定着してきている。



内容	年一回の集落総出のクリーンアップ	
期間	6月5日	
場所	潟上市天王字塩口に隣接する承水路	
活動普及対象	地元住民	
アピールポイント	集落に隣接する小さい頃から親しんだ「赤水」水路	
自己評価	①役職員や組合員に運動への理解が浸透している	15% / 20%
活動達成 71%	②基本理念や目標を立て、関連性を持った運動を実施している	13% / 20%
	③身の丈に合った運動を継続しながら、広がりを持たせる工夫を行っている	13% / 20%
	④水利施設の役割など水土里ネットの仕事を理解してもらう内容も含まれる	12% / 20%
	⑤この活動で最も力を入れた項目について○を付けて評価	18% / 20%
	組織の活性化・地域農業の振興・ <u>地域コミュニティへの貢献</u> ・地域資源の保全強化	
今後の課題	11年継続し、若干参加数が減ってきているので新しい活動の企画	

金足小泉 新城川土地改良区

安養寺文隆

小泉潟クリーンアップ

6月26日、今年で5回目となる『小泉潟クリーンアップ』が、関係者160名、学校生徒140名、合計300名の参加をいただき開催となりました。今年は、男潟、女潟、公園の3ヶ所に分かれてクリーンアップ活動をしました。少しずつではありますが、年々活動が地域に浸透し、ゴミの量も減少傾向となっています。まさに『継続は力なり』。クリーンアップをとおして、土地改良区への理解や農業用施設の大切さ、地域との連帯感を伝えることができ、盛会裡に終了することができました。今後も続けていきたいと思ひます。



内容	管内の学校に通う小・中・高生及び地域住民一体となったクリーンアップ活動	
期間	6月26日	
場所	秋田市金足小泉潟公園	
活動普及対象	地元住民、その他(小・中・高生)	
アピールポイント	地域の大人達だけでなく、管内の学校に通う小・中・高生を巻き込んだ活動	
自己評価	①役職員や組合員に運動への理解が浸透している	20%/20%
活動達成 90%	②基本理念や目標を立て、関連性を持った運動を実施している	20%/20%
	③身の丈に合った運動を継続しながら、広がりを持たせる工夫を行っている	20%/20%
	④水利施設の役割など水土里ネットの仕事を理解してもらう内容も含まれる	20%/20%
	⑤この活動で最も力を入れた項目について○を付けて評価	10%/20%
	組織の活性化・地域農業の振興・ 地域コミュニティーへの貢献 ・地域資源の保全強化	
今後の課題	活動も節目の5回継続できたので、クリーンアップだけでなく、少しずつ進化した活動が出来るよう検討していきたい	

西目 由利本荘市土地改良区

三浦昭夫

農業体験学習(米づくり体験学習)

小学校5年生が主体となって田植え、稲の生育観察、稲刈り、自然乾燥の各工程の実体験を通して学習活動をし、毎年行われる種苗交換会に活動成果を出店し賞を得ている。関連した学習として魚類の調査、親水公園の清掃と農業用水の水質調査も行っている。

その中でも米づくり体験は、生涯で一度の体験となる子供も多数いると思われるので、地域住民の力を借りながら学習してもらっており大変実のある活動と思う。又、収穫した米は消費拡大と学校給食に使用し喜ばれている。



内容	小学校5年生による米づくり体験学習	
期間	5月～10月	
場所	西目地域一円	
活動普及対象	地元住民、その他(JA秋田しんせい西目、由利本荘市役所西目総合支所、稲作研究会、AST農場、西目小学校、西目幼稚園)	
アピールポイント	体験学習により主食である米の大切さ、農業用水の節水の仕方、河川の汚濁防止等環境保全の大切さを学習の柱としている	
自己評価	①役職員や組合員に運動への理解が浸透している	15%/20%
活動達成 90%	②基本理念や目標を立て、関連性を持った運動を実施している	20%/20%
	③身の丈に合った運動を継続しながら、広がりを持たせる工夫を行っている	20%/20%
	④水利施設の役割など水土里ネットの仕事を理解してもらう内容も含まれる	20%/20%
	⑤この活動で最も力を入れた項目について○を付けて評価	15%/20%
	地域資源の保全強化	
今後の課題	年々関心が深まっており、継続していきたい 天候に左右されることと小学校の授業時間の調整が難しい面もあり、適期作業ができないこともある	

本莊子吉 水土里ネット子吉

渡辺 聡

ふるさと環境教室

子吉小学校5年生を対象に授業の一環として平成22年度からふるさと環境教室の活動をしております。興味津々と農業用施設を見学する児童達を見て、少しでも農業や土地改良区に興味を持ってもらえたらと思います。



内容	子吉の水源・ふるさとの自然環境を学習	
期間	5月30日	
場所	水道用ため池・農業用ため池・発電所等	
活動普及対象	その他(子吉小学校生徒)	
アピールポイント	ため池が地域の農業、生活を支える重要な施設であることを子供達に知ってもらう	
自己評価	①役職員や組合員に運動への理解が浸透している	20% / 20%
	②基本理念や目標を立て、関連性を持った運動を実施している	10% / 20%
	③身の丈に合った運動を継続しながら、広がりを持たせる工夫を行っている	10% / 20%
	④水利施設の役割など水土里ネットの仕事を理解してもらう内容も含まれる	20% / 20%
	⑤この活動で最も力を入れた項目について○を付けて評価	20% / 20%
	組織の活性化・地域農業の振興・地域コミュニティへの貢献・ 地域資源の保全強化	
今後の課題	特になし	

活動達成

80%

西木 仙北市西木土地改良区

千葉 伸子

きらきら発見！施設見学会

今年で10回目を迎えた施設見学会です。毎年同じ活動ですが、児童たちの頭首工の管理橋を歩く時の笑顔と各施設の説明を熱心に聞く様子を見るといつも嬉しく思います。この児童たちが見て聞いたことを家に帰ったら得意げに家族に話してくれればいいな、「川にゴミを捨てられないよ」と言ってくれればいいな、お米を作っている家族と水の話をして欲しいなと思います。

市企業局、下水道課等の協力を得て、地域の水の循環を知り、管理する人がいることや水の大切さを児童に感じてもらえればありがたく思います。



内容	宮田頭首工、小山寺頭首工、仙北市浄水場、西明寺クリーンセンター(下水処理場)の見学	
期間	10月18日	
場所	宮田頭首工、小山寺頭首工、西明寺高区浄水場、西明寺クリーンセンター	
活動普及対象	その他(西明寺小4年生)	
アピールポイント	地域の人々に水土里ネットを理解してもらうために、まず子どもたちに頭首工などの施設を見学してもらいました。今回の見学会の様子は、仙北市の広報の表紙を飾り仙北市全戸に届けられ西木地区以外の方々からも感想が届きました。	
自己評価	①役職員や組合員に運動への理解が浸透している	18% / 20%
	②基本理念や目標を立て、関連性を持った運動を実施している	15% / 20%
	③身の丈に合った運動を継続しながら、広がりを持たせる工夫を行っている	18% / 20%
	④水利施設の役割など水土里ネットの仕事を理解してもらう内容も含まれる	20% / 20%
	⑤この活動で最も力を入れた項目について○を付けて評価	15% / 20%
	組織の活性化・地域農業の振興・地域コミュニティへの貢献・ 地域資源の保全強化	
今後の課題	この活動をどのように広がりを持たせるか	

活動達成

86%

水土里のみちウォーキングin「抱き返り溪谷」

今年度は5回目の開催となり、参加者は107名と昨年度より30名ほど多くなった。県立自然公園である抱返り溪谷が開催地ということもあり、リピーターも多く、今後も継続して開催していきたい。コースは駐車場を出発し、疏水百選にも選ばれている田沢疏水土地改良区の「抱返り頭首工」や仙北平野土地改良区の「玉川頭首工」の施設を巡り、自然豊かな原生林の中の青い溪流と断崖絶壁が織りなす勇壮な溪谷美を堪能できる。約7キロと9キロの2コースを設け、ゴール地点では「完歩証」と記念品として毎年好評の「あきたこまち」450gをプレゼントしている。また、新日本歩道紀行100選にも選定された。秋田県・土地連・各改良区のホームページの協力などを得て、募集方法を考えもっと広くPRしていきたい。



内 容	普段何気なく見ている自然の中を、ウォーキングを通じて健康増進を図ると共に、周辺に点在している普段立ち入ることのできない、農業水利施設に親しみ施設の役割や大切さを各土地改良区担当職員から、説明をいただき理解してもらうことを目的に取り組む	
期 間	6月19日	
場 所	仙北市「抱返り溪谷」	
活動普及対象	一般県民	
アピールポイント	新日本歩道紀行100選に選定	
自己評価	①役職員や組合員に運動への理解が浸透している	10%/20%
	②基本理念や目標を立て、関連性を持った運動を実施している	10%/20%
	③身の丈に合った運動を継続しながら、広がりを持たせる工夫を行っている	15%/20%
	④水利施設の役割など水土里ネットの仕事を理解してもらう内容も含まれる	20%/20%
	⑤この活動で最も力を入れた項目について○を付けて評価	15%/20%
活動達成	70%	
今後の課題	今年度はアンケート調査を実施し次のようなご意見がありました。 ①ガイドマップが歩くときにがさばるので首につるすか折り畳み式にしてほしい。②コース全体にトイレが少ない。 ③中間地点等に何キロ表示がほしい。④先導するスタッフの数を増やしてほしい。 等々のご意見がありましたので改善見直しできるものは今後、役員会で協議し来年度開催へ向けたい	

七滝 水土里ネット仙北平野

水生生物の自然観察会

調査地点上流の砂防ダムには、ブラックバスが生息しており下流の生態系への影響が懸念されています。そこで、子供たちから協力を頂き、毎年調査を実施しています。子供たちが一生懸命捕獲作業を行い、水質階級Ⅰ～Ⅱ(きれいな水)に該当する生物を多数発見出来た事は大きな成果だと思います。また、PH測定も行い、中性であることも分かりました。今回の活動内容が上級生から下級生へ伝わり、更には家族へと情報発信されれば、多くの人に理解が浸透していくのではないかと思います。



内 容	子供たちの力を借り、水質階級Ⅰ～Ⅳの水生生物調査及び水質調査を実施	
期 間	7月15日	
場 所	丸子川支流湯田沢川上流部	
活動普及対象	地元住民	
アピールポイント	地域の豊かな自然環境との絆を深めてもらう活動になった	
自己評価	①役職員や組合員に運動への理解が浸透している	18%/20%
	②基本理念や目標を立て、関連性を持った運動を実施している	19%/20%
	③身の丈に合った運動を継続しながら、広がりを持たせる工夫を行っている	18%/20%
	④水利施設の役割など水土里ネットの仕事を理解してもらう内容も含まれる	19%/20%
	⑤この活動で最も力を入れた項目について○を付けて評価	19%/20%
活動達成	93%	
今後の課題	現状の自然環境に満足せずに、活動を継続し、環境変化を把握していく必要がある	

花の植栽活動

今回取り組みました栄小学校は、中山間地域に近い光景があり、田んぼやため池といった自然に囲まれた農村地域でもあることから、児童の皆さんは感情豊かで素直な子供たちでした。運動を通じて小さな花の命も、実は大きな意味を持っていることを少しでも多くの子供たちに学んで頂けたと思っています。

今年度はあまり手の込んだ運動ではありませんでしたが、植栽した日から児童が毎日水やりを交代で続けていると小学校から聞き、運動は大成功だったと思っています。

今後とも色々なアイデアを出し、地域と共に歩む活動を展開していきたいと思っています。



内 容	横手市立栄小学校の全校生徒とベコニア、サルビア、マリーゴールドの三種類の花をプランターへの植栽活動を実施	
期 間	6月1日	
場 所	横手市立栄小学校	
活動普及対象	地元住民	
アピールポイント	栄小学校の校長先生から、学校の美化運動と生物の大切さを児童の皆さんに是非教えたいという、校長先生の強い希望もあり全校児童による花の植栽作業を行いました	
自 己 評 価	①役職員や組合員に運動への理解が浸透している	15%/20%
	②基本理念や目標を立て、関連性を持った運動を実施している	20%/20%
	③身の丈に合った運動を継続しながら、広がりを持たせる工夫を行っている	20%/20%
	④水利施設の役割など水土里ネットの仕事を理解してもらう内容も含まれる	20%/20%
	⑤この活動で最も力を入れた項目について○を付けて評価	15%/20%
	組織の活性化・地域農業の振興・地域コミュニティへの貢献・地域資源の保全強化	
今後の課題	新たな地域での、新たな活動を計画・実行したい	

活動達成

90%

平鹿 秋田県雄物川筋土地改良区

小川 大 洋

皆瀬1号幹線水路植栽活動

植栽の当日は天候にも恵まれ、地域住民や関係機関から大勢の方にご参加いただくことができました。約3時間かけ一株一株丁寧に植付を行い、見事なフラワーロードが完成しました。

植栽活動中に「毎年楽しみにしているから頑張ってね」と声をかけて下さる方や、満開の花を眺め談笑している地域住民の方々の姿も見かけ、このフラワーロードが市民の憩いの場となっていることを実感し、嬉しく思います。

当区は今年度より管内7改良区が合併し、新体制で初めての植栽活動となりました。地域住民と一緒に、ふるさとの景観作りを行うこの活動を通して、職員間の親睦も深めることが出来、とても有意義な活動となりました。



内 容	ボックス水路の上に植栽する	
期 間	6月24日	
場 所	横手市十文字町佐賀会字下沖田地内	
活動普及対象	1.組合員 2.地元住民 3.一般県民 4.その他	
アピールポイント	行き交う住民に一時のオアシスを提供できればと	
自 己 評 価	①役職員や組合員に運動への理解が浸透している	5%/20%
	②基本理念や目標を立て、関連性を持った運動を実施している	10%/20%
	③身の丈に合った運動を継続しながら、広がりを持たせる工夫を行っている	15%/20%
	④水利施設の役割など水土里ネットの仕事を理解してもらう内容も含まれる	10%/20%
	⑤この活動で最も力を入れた項目について○を付けて評価	15%/20%
	組織の活性化・地域農業の振興・地域コミュニティへの貢献・地域資源の保全強化	
今後の課題	活動が単発であり、花が散ると終わってしまい、跡形もなくなる	

活動達成

55%

地域住民一体となった維持管理コンテスト

各活動組織の代表が各地区の実施状況を巡回し、項目別に採点しながら実施内容の説明を行いました。各活動組織において、それぞれ工夫した取り組みが見られ、活動組織間の連帯意識の高揚や情報交換の場としてなくてはならないものとなっております。

また、農業用水利施設の重要性や維持管理活動のPRにも努めながら、多面的機能支払交付金制度を通じて大きな効果生まれつつある、地域住民との交流活動(農家・非農家を巻き込んだ集落環境、生活用水の確保等)、更新期を迎える土地改良施設の更なる長寿命化対策等の啓蒙にも努めております。

この維持管理コンテストは本年度節目の30回を数え、水土里ネット山田五ヶ村の21世紀土地改良区創造運動の中核を担う活動となっております。今後とも創意工夫に努めながら、水土里ネットの大切な役割を地域住民に伝える取り組みを行ってまいります。



内容	維持管理実施状況の巡回コンテストを実施	
期間	9月12日	
場所	水土里ネット山田五ヶ村管内	
活動普及対象	1.組合員 2.地元住民	
アピールポイント	水土里ネット山田五ヶ村管内で展開されている、多面的機能支払交付金活動組織(20の下部活動組織)が実施している農地維持活動・資源向上活動の取り組みについて、毎年度実施している維持管理コンテストと共催で実施している	
自己評価	①役職員や組合員に運動への理解が浸透している	20%/20%
	②基本理念や目標を立て、関連性を持った運動を実施している	15%/20%
	③身の丈に合った運動を継続しながら、広がりを持たせる工夫を行っている	15%/20%
	④水利施設の役割など水土里ネットの仕事を理解してもらう内容も含まれる	15%/20%
	⑤この活動で最も力を入れた項目について○を付けて評価	15%/20%
	組織の活性化・地域農業の振興・地域コミュニティへの貢献・ 地域資源の保全強化	
今後の課題	多面的機能支払交付金により土地改良区の維持管理事業と一体的に活動しているが、農村の過疎化・高齢化等に伴い参加者数が年々減少してきている現状にあるため、活動・運動のマンネリ化の防止及び地域住民への更なる周知が必要であると考えている	

活動達成

80%

高松 湯沢市中央土地改良区

水土里の出前学習「三途川隧道物語」

高松地区は中山間地域で谷が深く見学地も谷底に位置しており、40mほど川下まで下りて見学したことで、子供たちの記憶に残りやすい学習機会になったのではないかと思います。高松地区を流れる高松川は、酸性水で生き物がいない川であり、試験紙で酸性水の色と隧道に流れてくる水とを比べてもらったり、鑿で岩を砕いたりといった実体験をしてもらった。稲作は難しい地域であったが、三途川頭首工・隧道により灌漑できることとなっていることを知ってもらえ、今後も地域の大切な水と水土里ネットの活動について関心を高めていってほしい。



内容	須川小学校4年生の社会科学習「毒水にいども〜高松川流域の開発」の一環として、三途川隧道を見学・調査することで、須川・高松地区の生活向上・発展のために尽くした先人の働きや苦心について理解を深めてもらうため、出前学習・施設見学を開催	
期間	10月17日	
場所	三途川隧道、三途川頭首工	
活動普及対象	その他(須川小学生)	
アピールポイント	普段は入ることが出来ない隧道に水を切って入り、見学後に川をせき止め隧道に水が入る所を、目の前の現地で体験できる。コウモリの飛び回るトンネルも最高	
自己評価	①役職員や組合員に運動への理解が浸透している	15%/20%
	②基本理念や目標を立て、関連性を持った運動を実施している	10%/20%
	③身の丈に合った運動を継続しながら、広がりを持たせる工夫を行っている	15%/20%
	④水利施設の役割など水土里ネットの仕事を理解してもらう内容も含まれる	20%/20%
	⑤この活動で最も力を入れた項目について○を付けて評価	15%/20%
	組織の活性化・地域農業の振興・ 地域コミュニティへの貢献 ・ 地域資源の保全強化	
今後の課題	特にありません	

活動達成

90%

ふるさと秋田応援事業

出前授業や施設見学など毎年同じような内容で行っているが、受ける子供たちは毎年新たになる訳で、継続すること大切であり、その輪が広がってきていると思う。この活動は、地域の資源保全会の皆さんや保護者の方々などたくさんの方々からのご協力から成り立っている。これからも土地改良区が地域のコーディネーターとしての役割を担っていければと思っている。



内 容	出前授業や施設見学会、農業体験を通じ子供たちに農業の魅力を伝え、また子供たちを介して地域住民が活動に参画することにより、農業農村・農業水利施設が地域の宝として、地域資源から地域資産へと認識が変わり、保全・管理活動につなげていく。	
期 間	5月10日～2月28日	
場 所	稲川土地改良区管内	
活動普及対象	①.組合員 ②.地元住民 ③.一般県民 ④.その他(学校関係)	
アピールポイント	これまで活動をホームページで発信したことにより、一般写真家からイベントの問い合わせがあったり、新聞・テレビなどで取り上げられ、広く情報発信が出来たと思う。	
自 己 評 価	①役職員や組合員に運動への理解が浸透している	16% / 20%
	②基本理念や目標を立て、関連性を持った運動を実施している	18% / 20%
	③身の丈に合った運動を継続しながら、広がりを持たせる工夫を行っている	19% / 20%
	④水利施設の役割など水土里ネットの仕事を理解してもらう内容も含まれる	20% / 20%
	⑤この活動で最も力を入れた項目について○を付けて評価	18% / 20%
	組織の活性化・地域農業の振興・ <u>地域コミュニティへの貢献・地域資源の保全強化</u>	
今後の課題	組合員や地域の方々にもっともっと理解していただけるような活動を展開する必要がある この活動をさらに活性化させるため、新たな取り組みを行うなど主催者側として創意工夫が必要と思われる	

活動達成
91%

「水土里ネット秋田」HP内に、「支部だより」というブログを創設しました！ 皆さんと一緒にページを作っていきます。

支部だよりの管理画面は、http://www.akita-midori.net/pub_info/wp-admin です。
ユーザー名：midori-shibu
パスワード：shibu-dayori を入力して「新規追加」から記事作成を行って下さい。



「支部だより」をクリックするとこの画面が出ますので



ユーザー名またはメールアドレス

midori-shibu

パスワード

ログイン状態を保持

ログイン

「shibu-dayori」

とパスワードを入れて下さい。

— 水土里ネット 支部だよりに戻り

タイトルに
「水土里ネット〇〇」
と入れて書きはじめてね!!



第17回

美しく豊かな農村づくり 写真コンクール



入賞作品、16点が決定!!

主催:水土里ネット秋田

ベストあきた賞(秋田の農業&農村部門)

日本NN賞(日本の農業&農村部門)



「僕たちもお手伝い」 (撮影:秋田市河辺)
渡邊 次夫/秋田市



「朝の棚田」 (撮影:山形県朝日町)
阿部 紀秋/山形市

ナイスアグリカルチャー賞



「夫婦で収穫」高橋 真一/秋田市
(撮影:羽後町軽井沢)



「校外学習」九嶋 祐/大館市
(撮影:北秋田市綴子)



「りんご娘が勢揃い」五十嵐 清光/横手市
(撮影:横手市増田町)



「収穫を祝う」佐藤 義敏/大館市
(撮影:大館市)

棚田オーナー賞



「秋のきらめき」河村 聖允/秋田市



「うん。重い!」渡邊 五郎/北秋田市



「泥田の夏」原田 司/由利本荘市



「里山の春」高橋 康雄/由利本荘市



「秋色」須藤 寿/秋田市



「孫は跡とり」田口 秀三/秋田市



「たんぼアートを撮る」井波 英子/八郎崎町



「はさげけ風景」塚田 浩詞/由利本荘市



「収穫」加藤 悦子/由利本荘市



「収穫の喜び」阿部 重助/由利本荘市



【発行所】 秋田県土地改良事業団連合会 〒010-0967 秋田市高陽幸町3番37号
TEL.018-888-2750(代) FAX.018-888-2834
http://www.akita-midori.net/

